

2026年8月2日 説教「失われた人を救うために」

ルカの福音書 19 章 1～10 節

今朝からルカの福音書 19 章に入っていきます。いきなり、馴染みのある名前がでてきます。早速学んでいきましょう。

1. イエスに出会ったザアカイ (1～4 節)

① エリコに入って (1) 「それからイエスは、エリコに入って、町をお通りになった。」

旧約時代のエリコはヨルダン川に近い地にありました。ヨシュア記 6 章に出て来るのも、そちらです。新約時代のエリコはエルサレムから東に 30 キロ弱の距離にありました。ヘロデ大王たちが、ローマ風の庭園のある宮殿を立て、その近くなつめやしや、芳香を放つバルサム樹の林がありました。そこからの収入があり、ローマ帝国の側から見れば、課税するのに都合の良い町でした。イエスはエルサレムを目指しつつ、エリコを通られたのです。

② ザアカイという人 (2) 「ここには、ザアカイという人がいたが、彼は取税人のかしらで金持ちであった。」

さて、その町にザアカイという人が住んでいました。彼は取税人でした。それもその元締めでした。彼はユダヤ人でしたが、ローマ帝国の税を集めていたのです。ローマ帝国は属国の民の税金を集めるのには、その国の取税人に任せていたのです。彼は同じ民族のユダヤ人から税を取りたてていたのです。この町からの税収入をローマも当てにしていました。ローマの権限を笠に着て、税の取り立てをしていました。当時、ローマで定められた額以上のものを、取税人が民に要求するのは普通でした。不正でしたが、まかり通っていたのです。そんなことでザアカイは金持ちでした。

③ 木に登り (3～4) 「彼はイエスがどんな方か見ようとしたが、彼は背が低かったので、群衆のために見ることはできなかった。それで、イエスを見るために、前方には走り出て、いちじく桑の木に登った。ちょうどイエスがそこを通り過ぎようとしておられたからである。」

そんなザアカイの住むエリコの町にイエスが来られたのです。彼はそのことを聞いて、なんとかしてその姿を見てみたいと思いました。通りに出かけたのは良いのですが、大勢集まっていて、見ることはできそうもありません。特に、身長が低かったので、どうにもなりません。しかし、まさに主の備えて、目の前にいちじく桑の木があったのです。身軽な彼はするとその木に登り、そこを通ろうとするイエスの姿を見るのに間に合いました。

2. ザアカイの客となったイエス (5～7 節)

① 降りて来なさい (5) 「イエスは、ちょうどそこに来られて、上を見上げて彼に言われた。『ザアカイ。急いで降りて来なさい。きょうは、あなたの家に泊まることにしてあるから。』」

ザアカイのイエスとの出会いは劇的でした。イエスが木の下を通ろうとした時のことですが、イエスの側ではそれを予め知っておられました。木の上を見上げられると、主イエスは仰せになったのです。「ザアカイ。急いで降り

て来なさい」。名前で呼びかけられたのですからびっくりですが、「家に泊まることにしてあるから」と言われて、さらに驚いたことでしょう。

②大喜びで迎え (6)「ザアカイは、急いで降りて来て、そして大喜びでイエスを迎えた。」

ザアカイは自分のことをこれほどに知り、配慮してくださる方に感激しました。そして、木から急いで降り、大喜びでイエスをお迎えしたのです。

③人々のつぶやき (7)「これを見て、みなは、『あの方は罪人のところに行き、客となられた。』』と言ってつぶやいた。」

しかし、一部始終を見ていた人々の中は、このことは納得がいきませんでした。なにしろ、ザアカイは取税人のかしらです。不正に税を集めている罪人です。そんな人の家に行ってお客になるなど、あってはならないことでした。ザアカイのような人とは食事をすべきではないと思えたのです。

3. 救われたザアカイ (8～10 節)

①ザアカイの証し (8)「ところがザアカイは立って、主に言った。『主よ。ご覧ください。私の財産の半分は貧しい人たちのために施します。また、だれからでも、私がだまし取った物は四倍にして返します。』。』

イエス・キリストがザアカイの家に滞在中、何を話され、何をなさったのかは想像するしかありません。しかし、彼の内に人生の大変化が起きていたのは間違いありません。ザアカイが主イエスに、貧しい人々への施し、だまし取った物は四倍にして返すという告白はそれを示していました。

②救いがこの家に (9)「イエスは、彼に言われた。『きょう、救いがこの家に来ました。この人もアブラハムの子なのですから。』」

ザアカイの告白を受けて、イエスは言われました。「きょう、救いがこの家に来ました」。神の恵みにより、確かにザアカイは救われたのです。彼が求めてきたものから解放されて、新しいいのちが宿ったのです。(Ⅱコリント 5:17)。そして、ザアカイがアブラハム以来の恵みの系譜に彼も連なっているということを確認していただいたのでした。

③人の子が来た目的 (10)「『人の子は、失われた人を捜して、救うために来たのです。』」

ザアカイの出来事のまとめです。人の子イエスが来られた目的がここにあります。それは「失われた人」すなわち、神から離れて罪に溺れ、苦しんでいる人々を救うためである、と伝えられたのです

《結論》

ザアカイの取税人という仕事がユダヤ社会の下で行われるのならば、制裁が加えられていたことでしょう。ところが、ローマ帝国権力の下では、それに逆らってまで、文句をいう人はいませんでした。誰もが、知っていた不正ですがどうにもなりません。そこで、取税人たちは収益をえました。日本が第二次世界大戦に敗れて、アメリカの進駐軍が入ってきたときに、甘い汁を吸っていた人々は、その不正をアメリカ軍の権威ゆえに、見過ごされていたのです。

ザアカイの懐は潤っていきました。彼は自分のことと、金をもうけることしか頭になかったでしょう。利益を数えてはほくそ笑んでいる状態だったでしょう。そういえば、あの「クリスマスキャロル」の主人公、スクルージもそんな人でした。誰からも愛されず、ただひたすらお金のことを考えている人でした。

ザアカイは若い時は友人達が離れていこうと、おかまいなし。お金があれば人の心も買えると思っていたことでしょう。彼は豪邸を得ました。召使いもいます。取税人のかしらとして、見える物はだいたい得ました。しかしその当時は、大切なもの、愛とか、信頼とか、友情とか・・・を失ったという実感がありました。

そんなところに、このエリコの町にイエス・キリストがこられたというのです。彼は興味を持ちました。何か心引かれました。そこで、ちょっと見てみようかと思い、出かけていきました。ところが、彼は背が低く、とても見ることはできそうもありません。彼は目の前のイチジク桑の木に登ったのです。毎日、木の上に登るのを日課にしているという人をテレビでみたことがあります。子供ではありません。もう50台ぐらいの人です。木の上でじっと考えるのだそうです。ザアカイは木の上に登るのが趣味であったわけではありませんが、それが彼の人生を変えました。向こうからイエス・キリストがやってきました。ドキドキ。はじめての人やものにふれるときの、独特の緊張感。イエス・キリストが近づいてこられましたが、緊張はほかの人々にとっても同じようだったでしょう。ところが、そんな群衆のなかの一人であり、木の上に登ったザアカイに主イエスは声をかけられたのです。「ザアカイ。おりていっしやい。今日、私はあなたの家に泊まることにしてあるから」。このお言葉は、彼の心を熱くさせました。彼はイエスさまを歓待しました。そこで、彼はイエス様の話を聞きました。もうはじめから、とらえられていました。彼はイエスという方に、本来的に出会ったのです。それは彼の存在を根底から変えてしまうそんな出来事でした。

イエスを知って、彼にはもはやお金はそんなに大事ではなくなりました。すごい変わりようです。お金より大切なものがあることがわかりました。聖書のなかには「金銭を愛する生活をしてはなりません。」とあります。お金で人生が狂ってしまうことがあるからです。それ自体が目的にすらなってしまうのです。

ザアカイはもはや、その生き方ではない、イエス・キリストの中にある恵み深さ、見えない尊さ、自分のことばかりに終始するのではなく、ほかの人の上にも恵みがあるようにと願う人生。自己中心に考えることから、へりくだって主なる神さまを思い、イエス様を見上げて歩む人生を彼はきっぱりと選び取ったのです。彼はイエス様と出会いました。イエス様は「この家に救いが到来した。」「人の子が来たのも失われたものを救い出して命を与えるためだ。」とおっしゃいました。

「人の子は、失われた人を捜して、救うために来たのです。」とありますが、「失われた人」とは霊的な迷子になった人々です。15章で学んだ、迷子の羊や放蕩息子もそうです。主は金亡者となり迷っていたザアカイを見つけ出し、救ってくださいました。主は一方的な恵みにより、神から遠く離れていた彼を導いてくださいました。彼のしたことは木に登ったことだけです。あとは不思議な主の恵みでした。自分なんかと思っているあなたにも主は臨んで下さいます。